

テーマ

誰もが身近に感じる

別院の創生

サブテーマ

「ちょっと聞いてこ、お寺で話そう」

「南無阿彌陀佛、人と生まれた意味をたずねよう」

重点教化施策

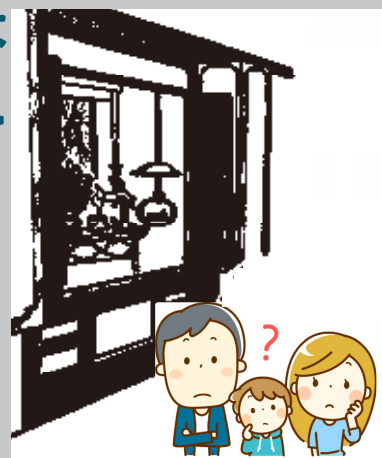
- 1 教化委員会の更なる活性化。
- 2 別院同朋の会を親しみ深く。
 - ・おしゃべり会
 - ・フィールドワークを中心として参加の増員を図る。
- 3 子どもの声が聞こえる別院に。別院子ども会の創成。
- 4 別院門徒会。特に婦人会の活性化を図る。
- 5 合唱団「みのり」の更なる推進。
 - ・報恩講中に「音楽法要」の実現を図る。

Q&A

どうしてお仏壇のことを

お内仏というの？

第12回



答え

真宗では「お仏壇」のことを「お内仏」といいます。「仏壇」はインド・中国で仏像を壇上に安置したもの、日本では寺院の本尊を安置する堂、あるいは本堂のお内陣を小型化し、ご家庭で礼拝する施設をいいます。

しかし、現在では亡き人（先祖）を僧侶、あるいは私の力で供養するために、仏像に加えて先祖の位牌を安置するための箱や棚として理解されています。

しかし、真宗門徒の私たちは仏壇のことを「お内仏」として、手を合わせています。それは、亡き人（ご先祖）を縁として外側にお荘厳である仏壇を用意し、内側に

は本尊を迎えて本願念仏のみ教えを聞信するという意があるのです。

そして、ご先祖から「念仏」を相続されているご家庭も、新たに自身の歩みの中で真宗に出遇われた方も仏壇の形式にはとらわれずに「南無阿彌陀仏」というお名号を迎えます。

真実の道理を明らかに示す阿彌陀仏の本願のはたらきによって自己中心として、ものごとを分別している身勝手な私の生活を見つ直すことが大切なことだということの意味があらって、真宗では「仏壇」ではなく「内仏」というのです。

現代では、仏間や床の間がなく仏壇を安置することができないというご家庭も多くなっておりますが、どのような場所でも念仏を称えることができるようにお名号軸や三つ折り本尊がございます。本山・別院・お手次のお寺にお尋ねして、お内仏を中心とした生活の営みが盛んになることを願っています。（第7組 長教寺 稲垣 洋信）

◆今年度『六字城』表紙写真

テーマ 大阪の街シリーズ

去る3月、教化委員会 広報部会が開催されました。会議では諸々の議題が上がる中、今年度の『六字城』の表紙写真をどうするかを検討されました。

見出しの通り、「大阪の街シリーズ」と銘打ち、ご門徒の西松薫さんの写真を掲載していくことになりました。ここにご紹介をさせていただきます。



西松 薫
1935年3月生
・天満別院ご門徒
・大阪天満宮 元広報担当

私は、元々釣りが好きでしたが、親戚の叔父さんの影響で、全国各地の風景写真を撮るくらい写真が好きになりました。昨年までは大阪天満宮の行事ごとの広報を担当させていただいていました。今でも趣味の写真があるので、健康でいられると思っています。

（大阪市北区在住）

報告

◆春季彼岸会勤修の報告



告知

◆合唱団「みのり」

練習日のお知らせ



去る3月20日（金）彼岸の中日、春季彼岸会並 総永代経法要 兼墓地納骨（物故者）追弔法要が勤修されました。別院では、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、御法話を中止に、法要は内勤めという形をとりました。密室にならないように、またマスクやアルコール除菌の対策をとって万全を期しました。過去に例を見ない状況の中で、13名の方々とお勤めをともにしました。

別院では、今月予定しておりました練習日が中止となりました。それを受けて、振替という形をとり、5月は16日（土）と30日（土）、2回の練習が予定されています。指導には大阪教区第13組 超願寺住職 村上奈津子先生にお越しいたします。

練習日は毎月第3土曜日の14時からです。参加費は無料です。男女問わず、関心のある方、未経験の方も、ぜひご参加ください。

◆お寺に初参りしませんか。

赤ちゃんを授かったら、仏さまに感謝とご挨拶をしましょう。

初参りとは、古来より勤められてきた、生まれた子どもの初めてのお仏事です。時期などは決まっております。

別院では新生児初参りを受け付けています。ぜひご家族お揃いでお参りください。

◆合祀墓地のご案内

別院墓地に於いて天満別院の由緒を敬慕し、崇敬護持に協力するご門徒、及び信徒の墳墓として合祀墓を新設しました。

多くの方々にご利用いただきました御案内申し上げます。



※ お手次寺院の了承を得られた方のみ受付させていただきます。
※ 儀式執行は別院職員が行います。詳しくは別院寺務所までご連絡ください。

◆晨朝（おあさじ）に参りましょう

～阿弥陀さまが

あなたを待っています～



別院では、毎朝7時45分から本堂にてお勤めがあります。

お勤めの本は別院で用意していますので、ご活用ください。

また土曜日、日曜日には職員による感話があります。

感話とは職員が日頃感じたことを10分程度でお話させていただくことです。

どなた様でもお参りいただけますので、一日の始まりをぜひ晨朝（おあさじ）から始めてみませんか。

皆様のご参詣をお待ちしております。